



地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

「空き教室利用」固まる

一色小・南棟 1 室、9 月から受付開始

学校連携部会(加藤良輝部会長)が一色小などと調整していた「学校施設運用規則」がまとめ、9 月から一色小の空き教室利用の受付を始めることになった。一色小南棟 1 階の 1 教室を再生協議会が借り受け、協議会が窓口になって進める。当初は協議会傘下の組織中心になるが、軌道に乗れば利用者の範囲や対象を広げたいとしている。一色小は来春からコミュニティースクールへの移行が決まっており、施設利用にまで踏み込んだ地域と学校の連携が、今後どう発展して行くかに関心が集まりそうだ。

一色小の空き教室利用は、今春発足の学校連携部会が最重要施策として取り上げてきた。子供たちの安全確保、教育機能の保持を担保しながらの態勢づくりが課題になっていた。同部会が一色小、町教育委員会と調整・合意した運用規則が 7 日(月)に開かれた同部会で報告・承認された。

使用場所は、「当分の間、南棟 1 階の 1 室」とし、授業がある平日だけでなく休日に
(裏面に続く)

やまゆり合唱団、来年 1 月に 3 度目の登壇



一色コミセンでも練習

新結成したやまゆり合唱団の練習が 8 月から佳境に入るが、このほど 3 回目の登壇が決まった。来年 1 月 20 日(土)、ラディアンで開かれるコミュニティースクールフォーラムへの出演で、10 月 14 日(土)の県公社・子ども音楽祭(ラディアン)、11 月 5 日(日)の本番(一色小体育館)に続くもの。町教育委員会からの要請に応じる。

また、合唱団の指揮者に一色小音楽専科の中山和明先生が就くことが決定。練習後半から指導に入る。さらに合同練習への参加が難しかったり、個人練習を希望する団員向けに山内先生、ピアノの高寺さんが中心になって CD 録音を終えている。合唱曲の CD 制作には IT クラブメンバーの協力を得た。最初の登壇までの合同練習はあと 4 回ほどしかなく、CD 活用への期待が高まっている。

(続き)

についても可能にした。利用者の範囲については、「再生協議会が掌握する団体及び個人」としており、利用希望者の予約管理、学校への連絡や調整は再生協議会が行う。利用時間は午前9時～午後9時。休日や平日の午後5時以降の利用は施錠、入退室とも別体系で行う。このほか、利用時の名札の着用、鍵の管理、入室方法などについても「運用ルール」を決めている。

再生協議会では、9月から電話、メールなどを通じての申し込みを受け付けるが、無理せず利用者を増やしていく考え。現在の余裕教室利用は、コミュニティ活動の活性化を狙いに取り組んでいるが、「一色小コミュニティスクール」の展開次第でさらなる調整が必要になると思われる。

友情の山、300人にとどまる

学校連携・友情の山部会（牧野士郎会長）が実施した山百合群生地的一般公開の参加者は、約300人（去年は約700人）にとどまった。7月23日（日）から受入れを始めたが、26日（火）が雨で4日間の開催になり、うち3日が平日だったのが響いた。26日に予定していた山野草の説明会も中止になった。山百合の開花は順調だったが、開花本数は去年に比べやや少なかった感じがある。



雨の中の来訪者



ところどころに大輪も

部会では、来訪者の住所、イベントを何で知ったか——などを調べている。来訪者のうち二宮町内は全体の3分の1ほどで、小田原、横浜、平塚、鎌倉、茅ヶ崎など周辺都市からの参加が予想以上に多かった。これらの参加者はほとんどが「新聞で知った」としており、広報展開には工夫が必要と思われる。

友情の山部会は去年の一般公開終了後、山百合の日照を良くするため、シュロや雑木の間伐を実施した。草刈りや施肥などにも注意を払ってきている。神奈川県育苗専門家によると、「山百合は生育に時間がかかり、去年の間伐などの効果が出て来るのは来年以降」という。群生地の保護・育成は長期計画で進める必要があるようだ。